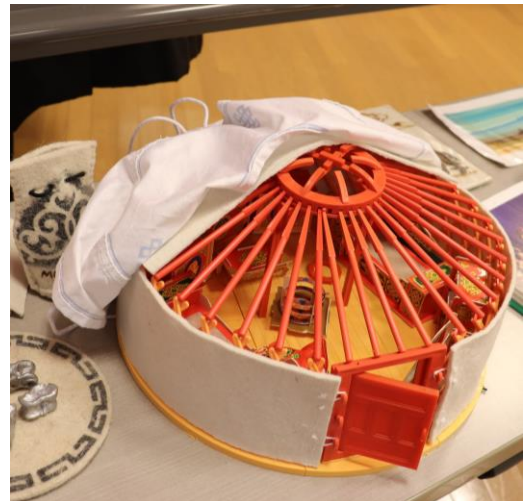


# 国際理解出前講座 大草原の国・モンゴル



9月18日（金）香寺公民館で、モンゴル出身のレンツェンホルロー・オユンゲレルさんを講師に迎え、国際理解出前講座を開催しました。オユンゲレルさんは、モンゴルの大学で日本語を専攻した後、日本の大学院でも日本語を勉強され、日本語がとても堪能です。ヘアドネーション（髪の毛を寄付するボランティア）をするために、2年ぶりに髪を短くし、マスクをして外出したら、親しいママ友からも気づいてもらえなかったという最近のエピソードから講座が始まりました。

次いで、コロナ禍におけるモンゴルの状況を現地の写真を交えて紹介しました。民族衣装に合わせた、カラフルなマスクを身につけた若者たちの姿や、街が突然封鎖されてしまい、外出先から1か月以上も家に帰れなくなった人たちもいるという話を聞きました。そういった状況にも柔軟に対応しているモンゴルの人たちのおおらかさに驚かされました。次に、モンゴルの四季に応じた人々の暮らしを紹介しました。遊牧民の住居「ゲル」や相撲・競馬・弓など、モンゴルのスポーツ、そして正月に作られる料理など、あまりなじみのないモンゴルの文化を楽しく知る機会になりました。



ゲルの模型



また、日本の小学2年生の国語の教科書に掲載されている「スーホの白い馬」という物語に登場する馬頭琴も紹介しました。棹の先頭に馬の顔の彫り物があるモンゴルの伝統楽器です。その音色は大草原を彷彿とさせ、しばし忙しい現実を忘れ、雄大な自然に思いを馳せました。参加者からは「まだまだ実際に訪れることは難しいですが、いつか行ってみたい!」との声がありました。その日が一日も早く訪れることを願っています。